

平成二十五年十二月の作品（文京シビックセンター5階D会議室）

海山の幸をかこみて年忘れ（一江）

（小田原 松永邸にて）
冬晴れや庭に踏んばる大櫓（正雄）

書齋まで銀杏を炒る匂ひかな（前歩）

友逝きて木枯の中迷いおり（孝昭）

枯落葉行き処なく吹かれをり（平六）

年忘れ家族が一人増へにけり（貴美）

群鳥に食はれて残る柿一つ（正佳）

錦秋に冠白き烏帽子岳（奉男）

熱爛がのどに浸み入る今宵かな（太郎）